

令和5年度 第2回
大阪府・大阪市経済動向報告会

最近の大阪経済の動向

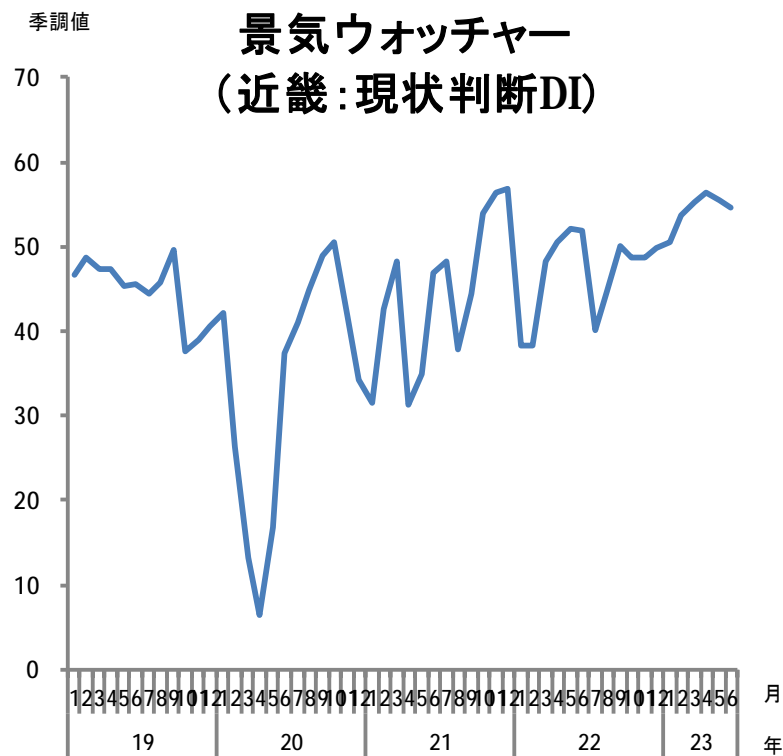
2023年8月17日(木)
大阪府商工労働部 商工労働総務課
大阪産業経済リサーチセンター
佐野 浩

今回の内容

- はじめに
今回の注目点など
- 個別指標の動き
需要面（個人消費、投資、輸出）
供給面（生産、企業動向、雇用）
大阪府景気観測調査（23年4～6月期）の結果
- 今後の見通しとまとめ

はじめに(1): マインド指標

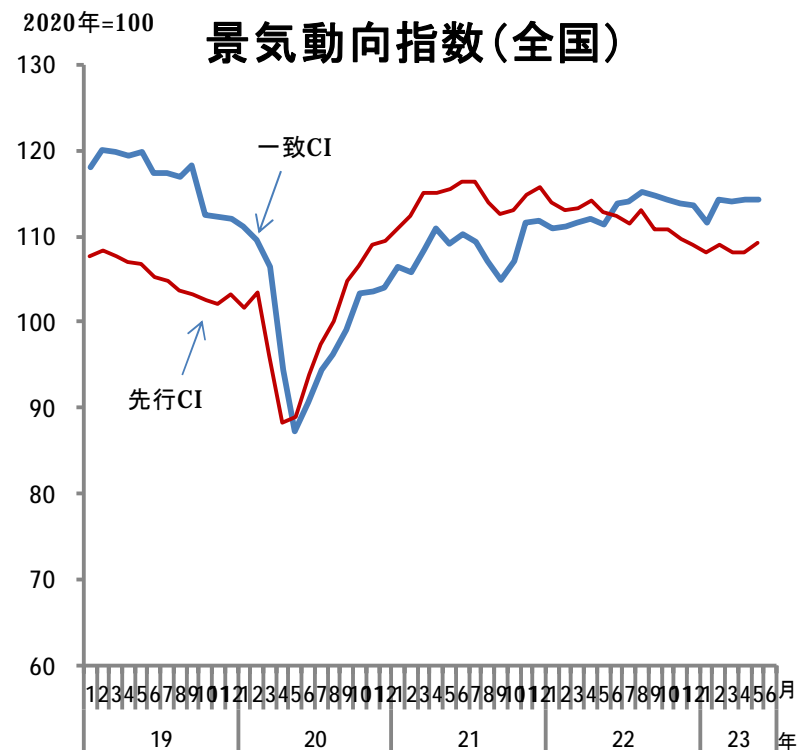
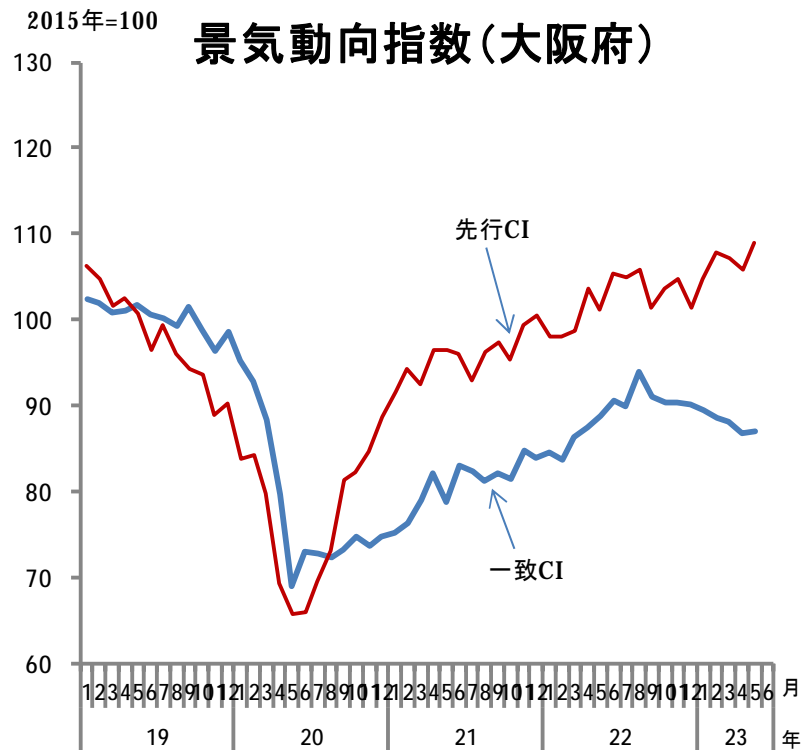
- ・マインド指標の推移をみると、コロナ禍により低下していたマインドは、コロナ禍による行動制限が緩和された後は、上昇基調で推移。
- ・また、消費者態度指数では、22年後半までは低下していたものの、23年になってから急回復。



(出所)内閣府

はじめに(2): 景気動向指数

- ・景気動向指数では、
一致CIは、大阪府・全国ともに、22年後半からさえない動きが続く。
先行CIは、大阪府・全国ともに、19年の水準を上回っている。

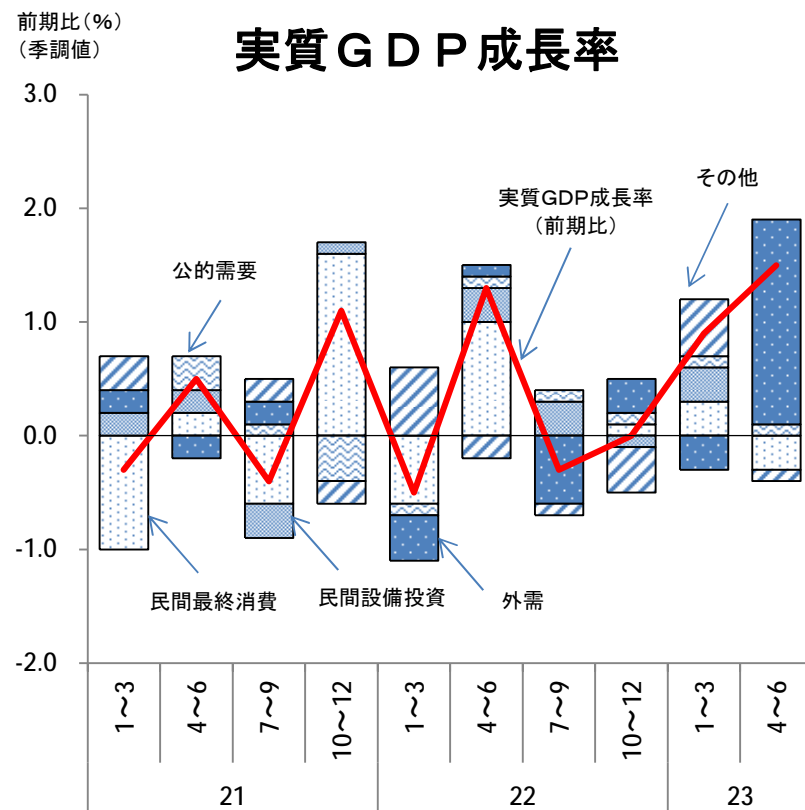


(出所)大阪産業経済リサーチセンター、内閣府

- ※一致CIは、景気に連動して動くと考えられる、いくつかの指標を合成して数値を算出したもの。
計算の都合上、複数の指標ではなく一指標のみの大きな変化でも、CIが大きく変動することに注意。
- ※大阪府と全国とは、採用系列の違いなどにより、水準などの単純な比較はできない。

はじめに(3): 実質GDP成長率

- 全国の実質GDP成長率では、23年4～6月期は3期連続のプラス。
4～6月期では「外需」が成長を牽引。
- 実質GDPの実額では、19年度の水準を2期連続で超える。



(出所)内閣府

はじめに(4): 今回の注目点

【これからお話しする内容】

●新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなってから、経済はコロナ前へと回復する動きがみられる。

・現状はどうか？ 今後はどうか？

・コロナ前と現在を比べると、どの程度なのか？

→個別指標の動きをみながら、考えていきたい。

●加えて、

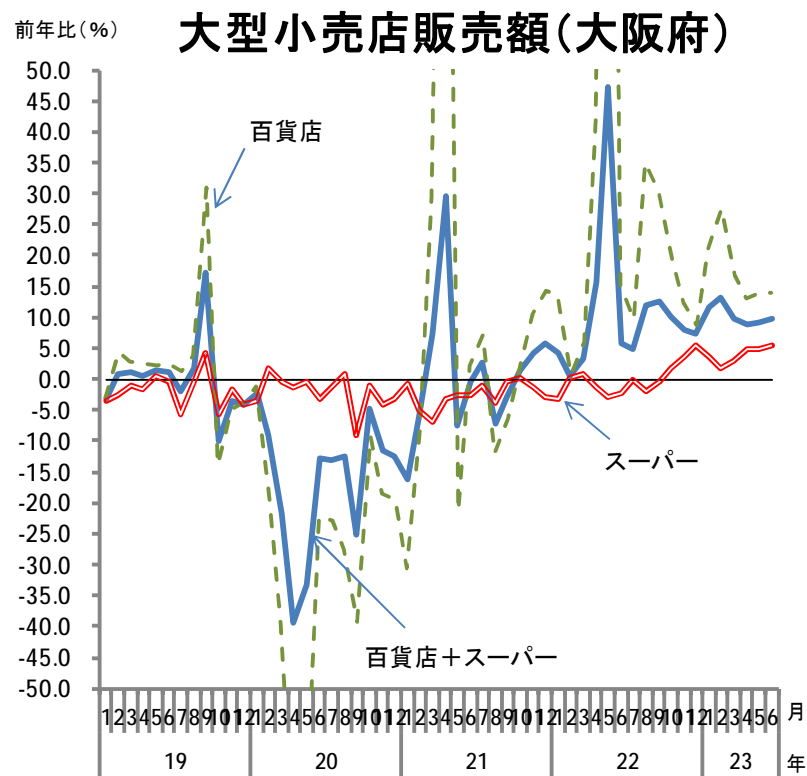
現状でみられる特徴と、コロナ後に新たに生じた課題

(雇用、生産、物価など)

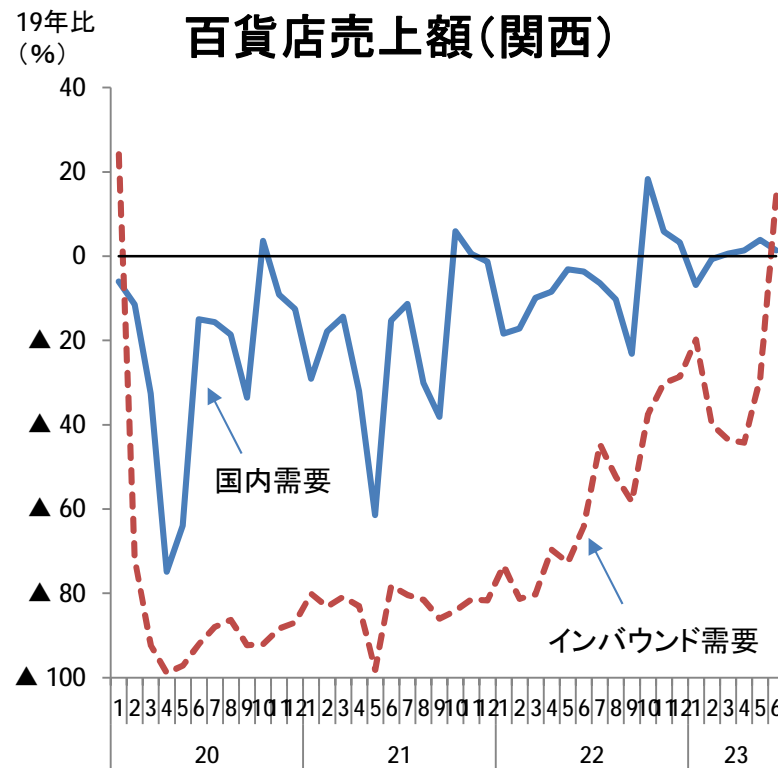
も同時に注目していきたい。

需要面の動き: 個人消費(1)

- 大阪府の大型小売販売額(6月)は、21ヶ月連続の上昇。
百貨店では国内向けだけでなく、インバウンドの回復が寄与。
スーパーでは節約志向の高まり等により持ち直し。



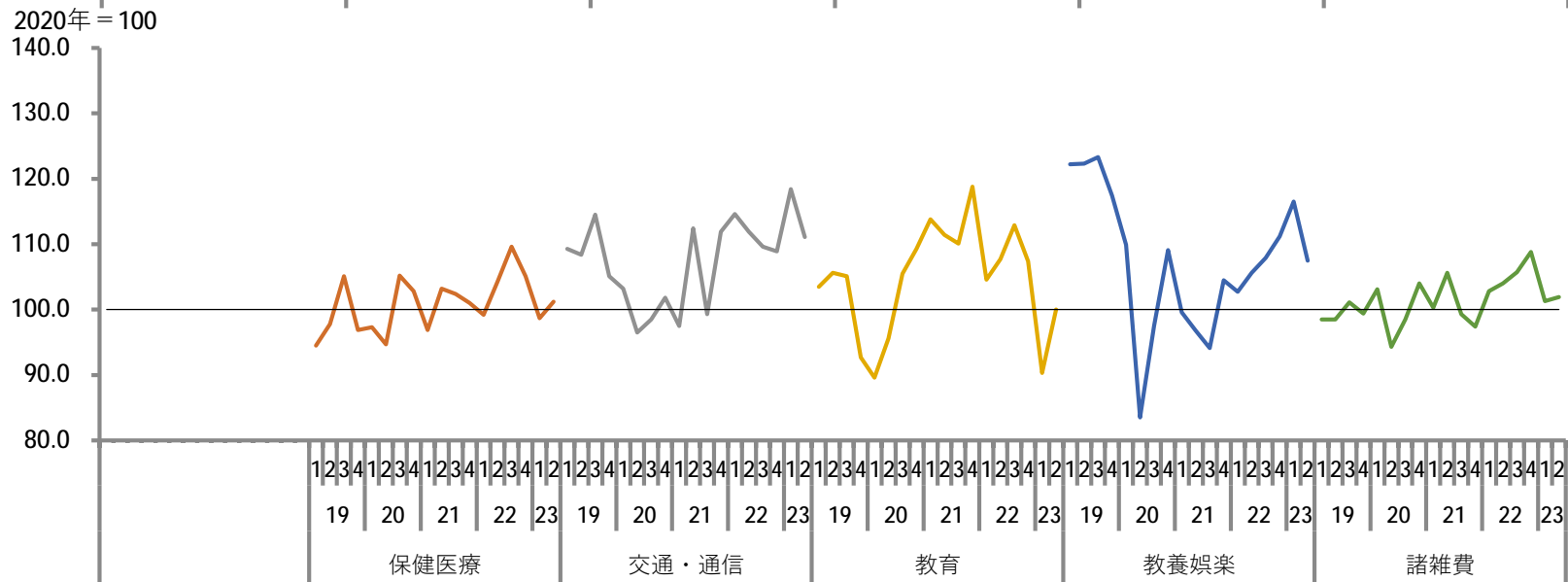
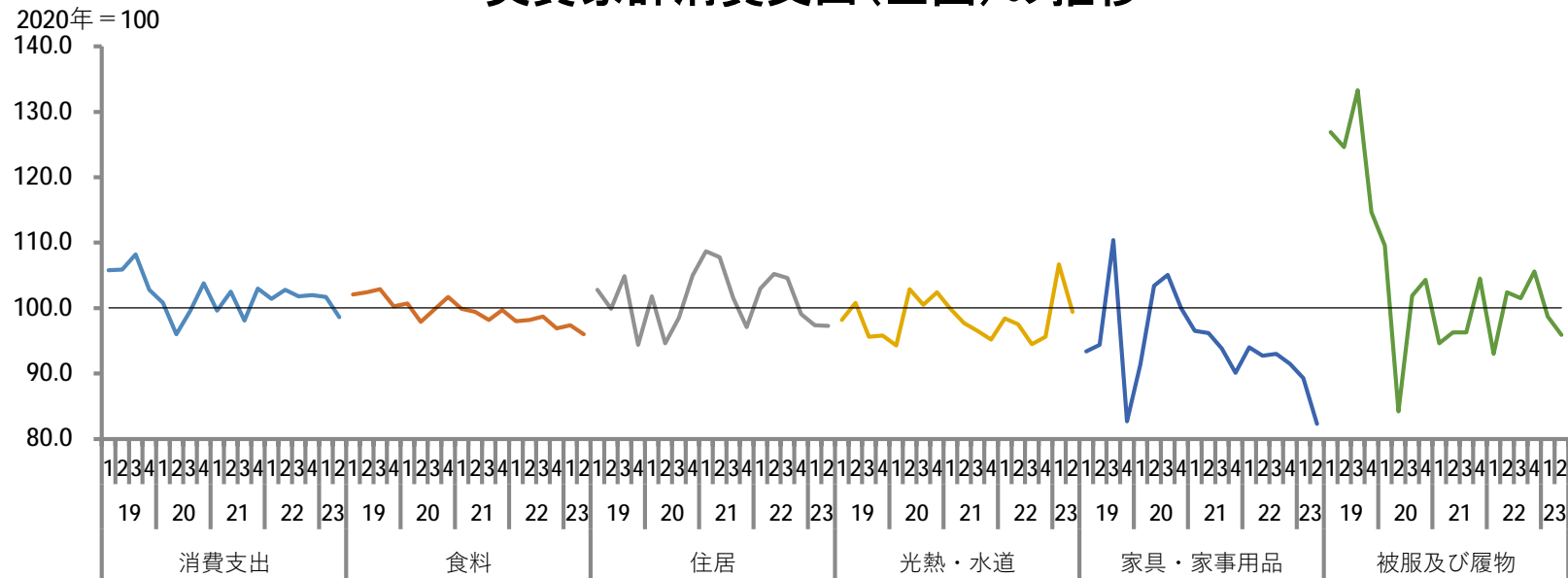
(出所) 経済産業省



(出所) 全国百貨店協会、日銀大阪より試算

需要面の動き：個人消費(2)

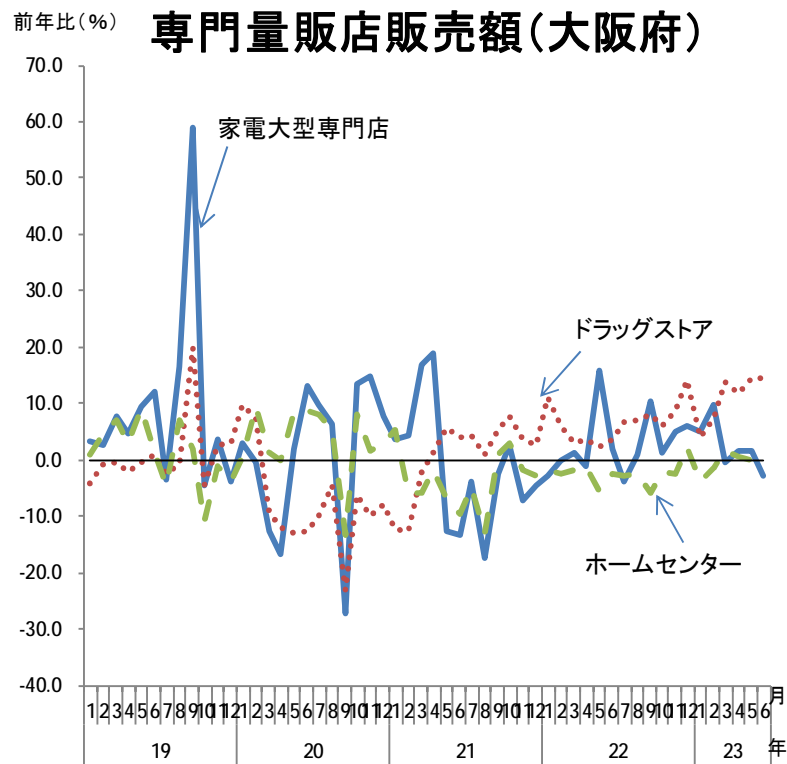
実質家計消費支出(全国)の推移



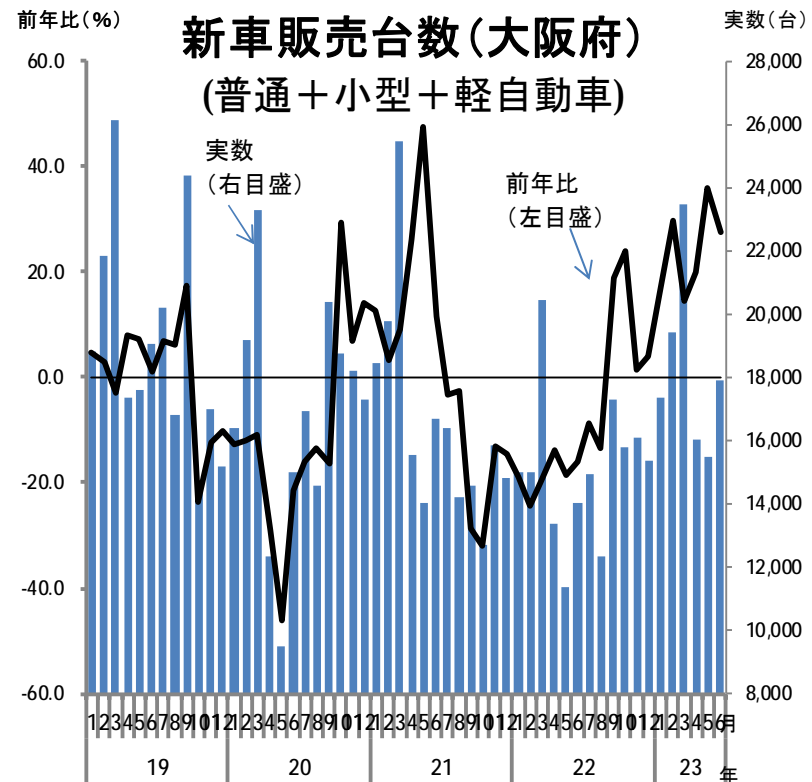
(出所)総務省統計局 ※品目別、季節調整値、2020年=100

需要面の動き: 個人消費(3)

- ・耐久消費財の動向(大阪府)では、家電大型専門店(6月)は、3ヶ月ぶりの減少。新車販売台数(6月)は、10ヶ月連続の増加。



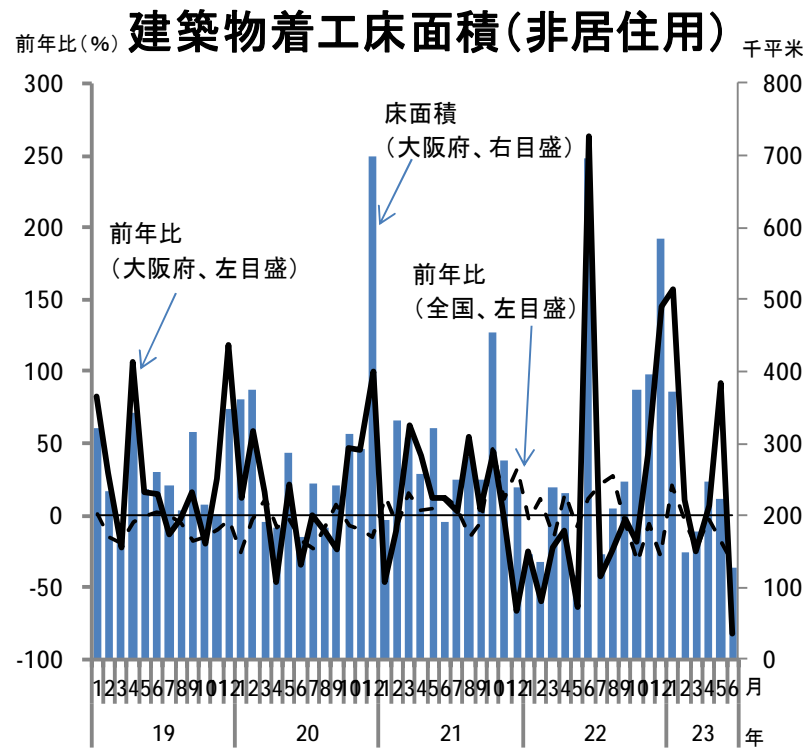
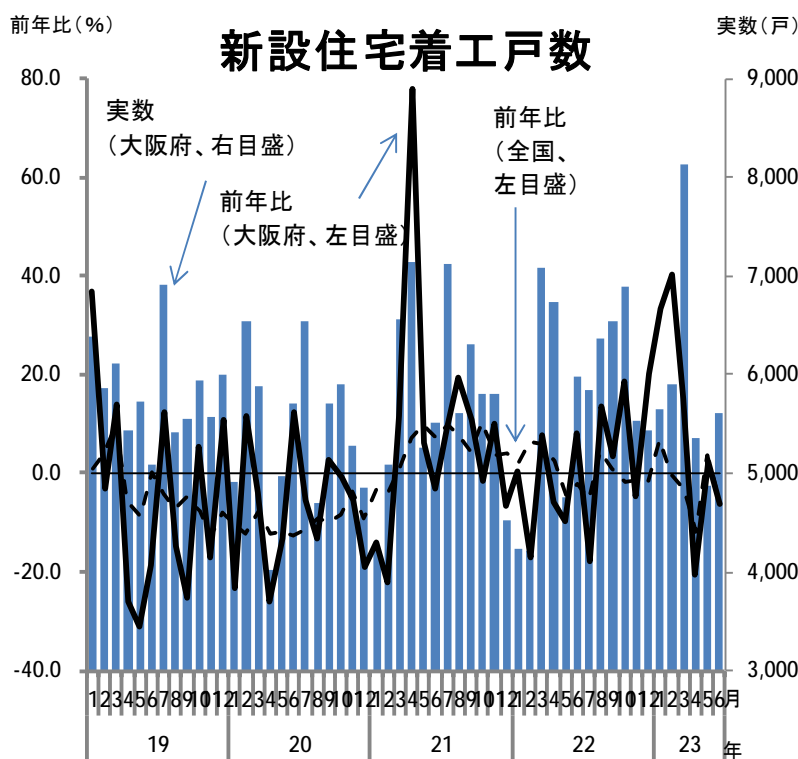
(出所) 経済産業省



(出所) 自販連などより作成

需要面の動き：住宅着工・建築着工

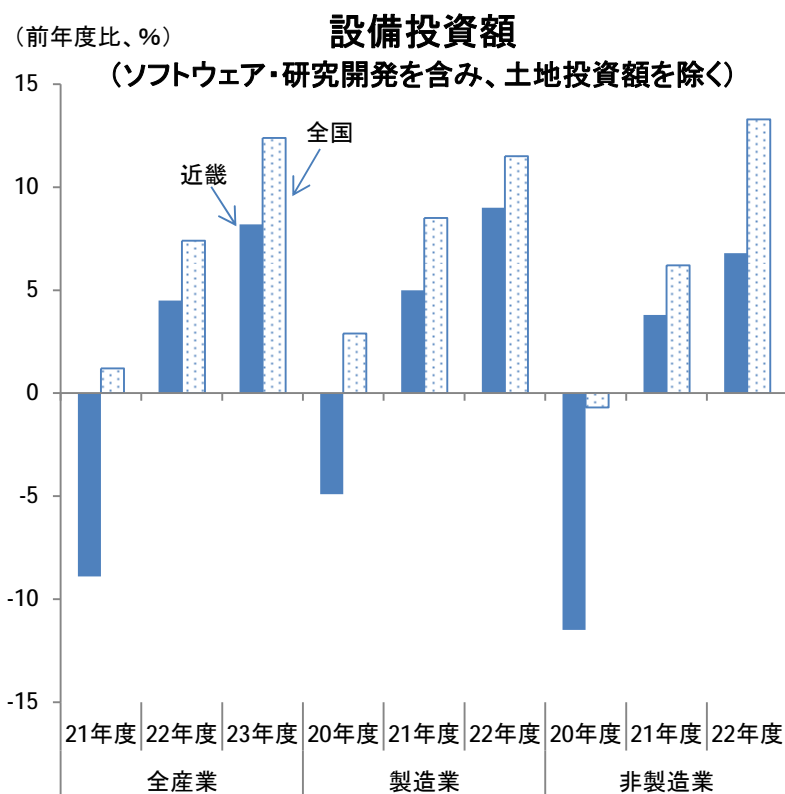
- ・新設住宅着工戸数(6月)は、大阪府・全国ともに2ヶ月ぶりの減少。
- ・建築物着工床面積(6月)は、大阪府は3ヶ月ぶりの減少。



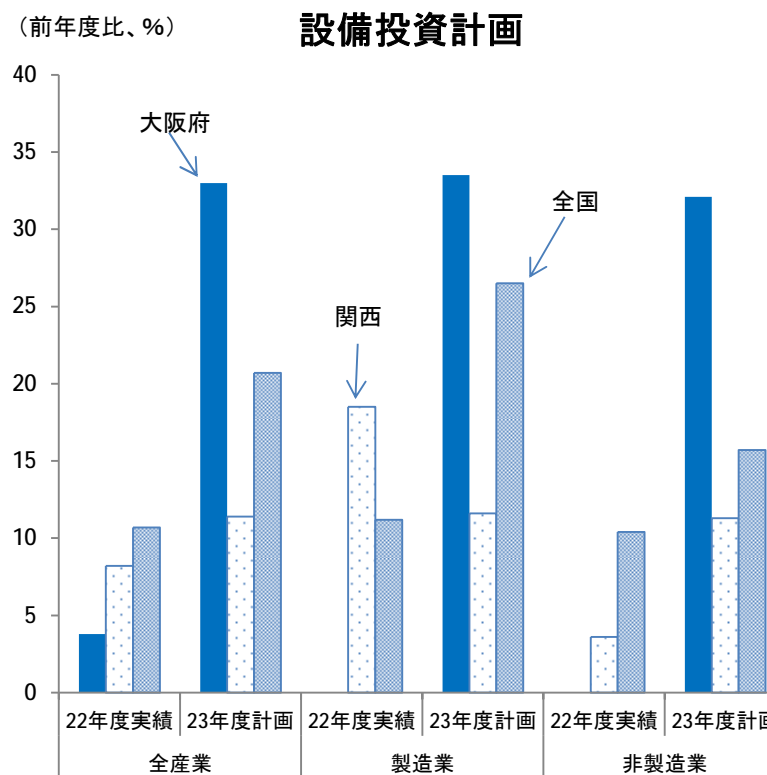
(出所)国土交通省

需要面の動き：設備投資

- ・設備投資では、22年度は前年度比で増加。
23年度は前年度までの先送り案件もあり、大幅に増加する計画。
→着実に実行されることを期待。



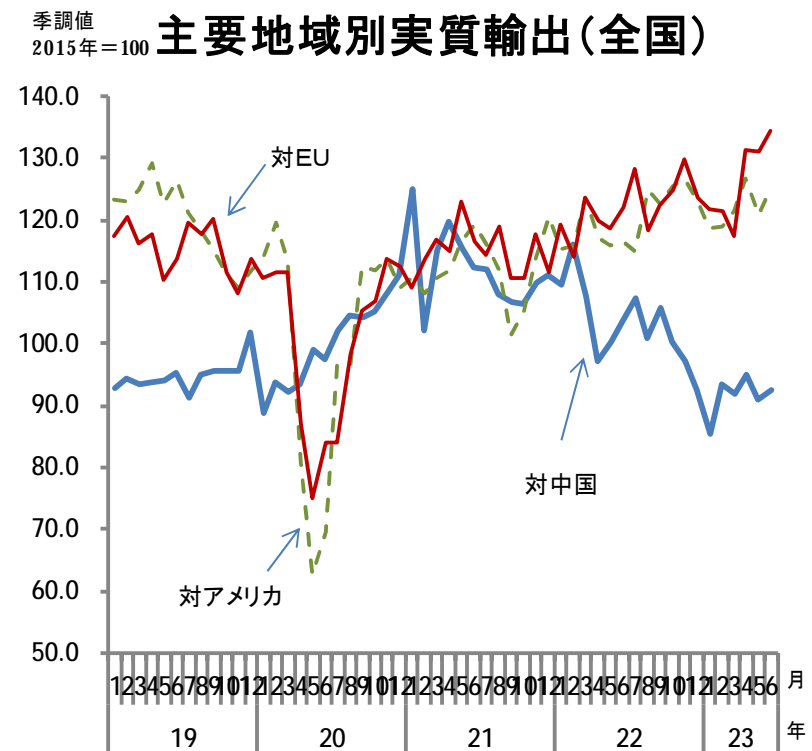
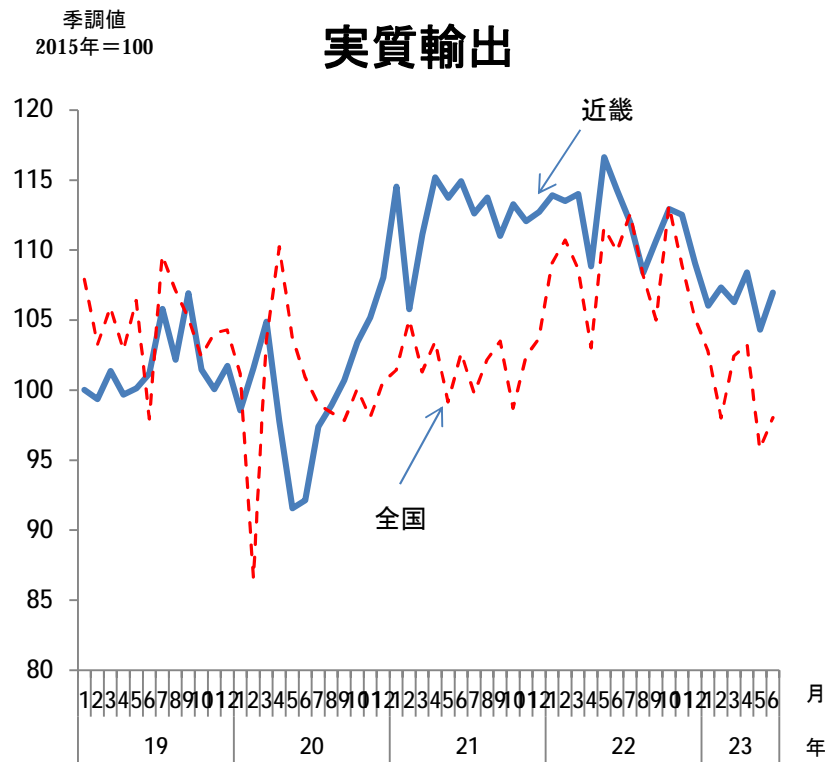
(出所) 日本銀行大阪支店
※近畿本社企業における設備投資額



(出所) 日本政策投資銀行
※本社の所在地ではなく、属地主義での設備投資額
大阪府の22年度実績は未公表

需要面の動き: 輸出(1)

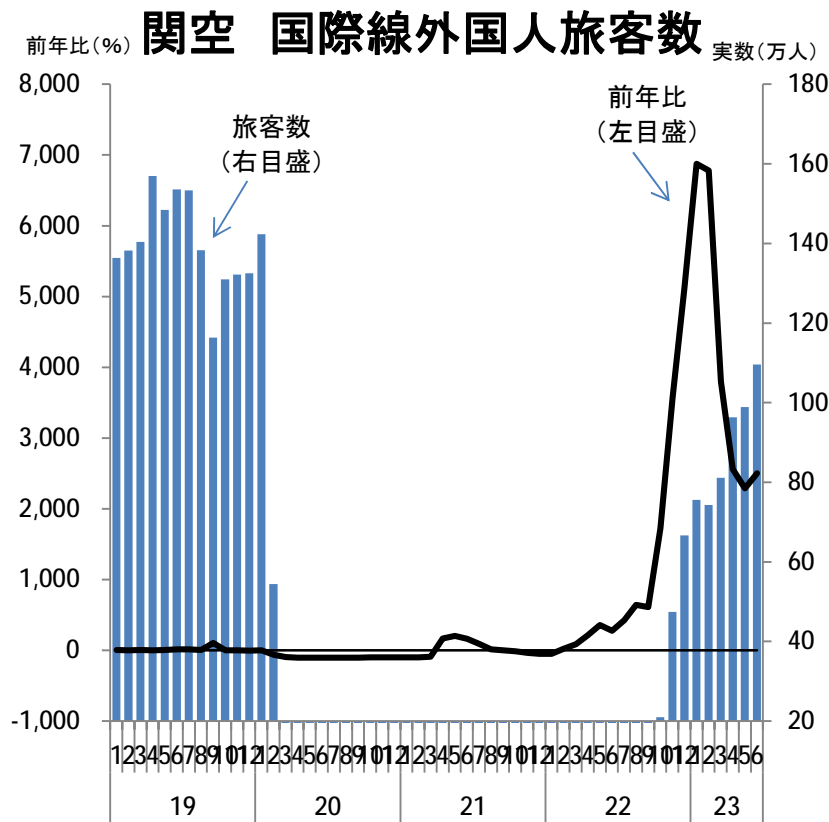
- ・実質輸出では、全国・近畿ともに22年後半から増加基調に一服感。国別(全国)では、特に「中国向け」で伸び悩み。



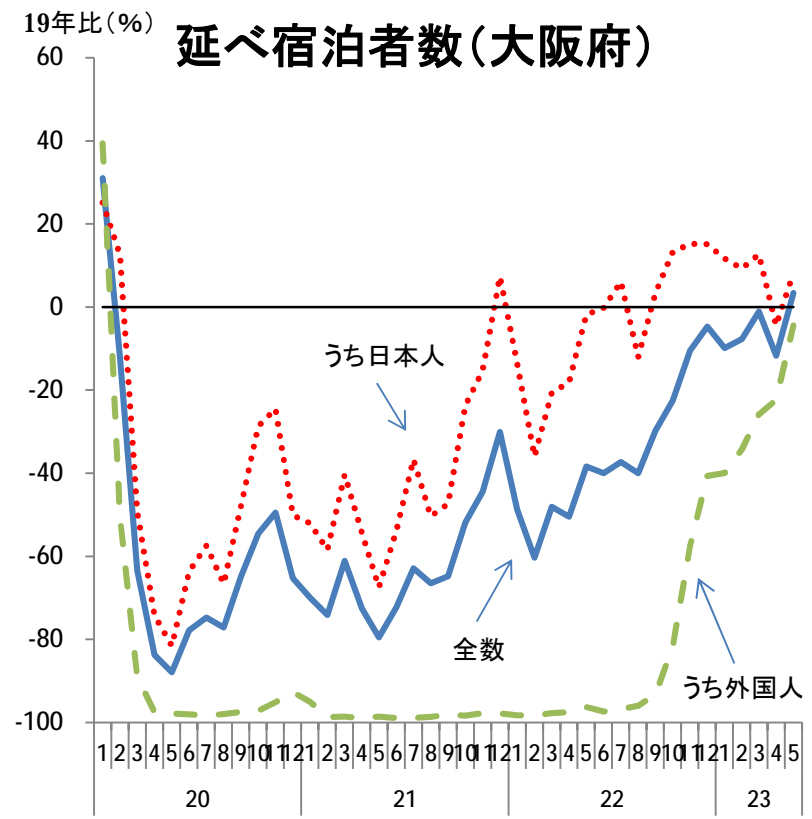
(出所) 日本銀行、日本銀行大阪支店
※季節調整値

需要面の動き: 輸出(2)

- ・関西空港の国際線外国人旅客数は、水際規制が緩和されてから急上昇。足元では、19年の半分以上まで回復。
- ・延べ宿泊者数(5月、大阪府)では、全数・日本人は19年比プラス、外国人は19年比で若干マイナス程度まで回復。



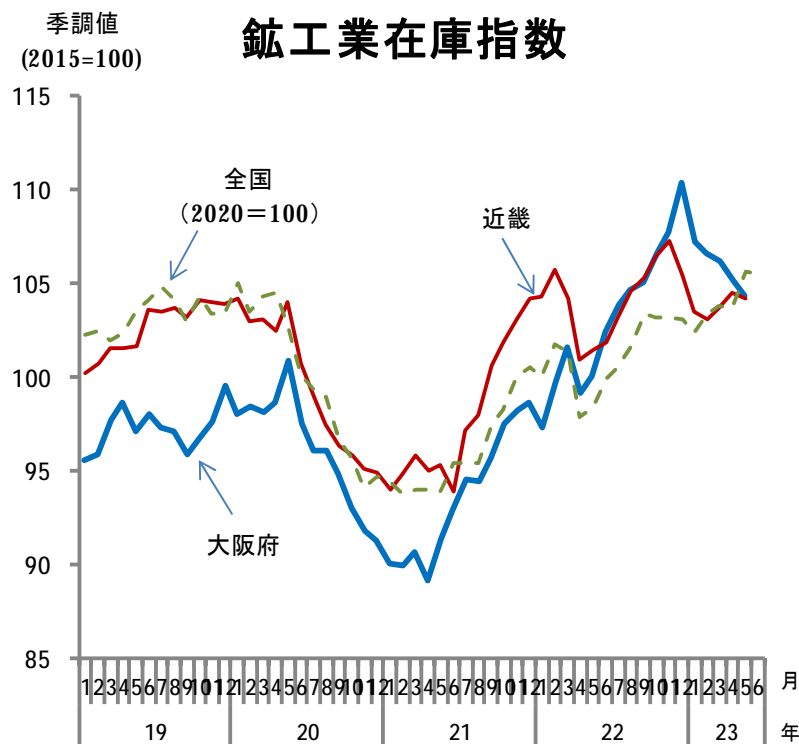
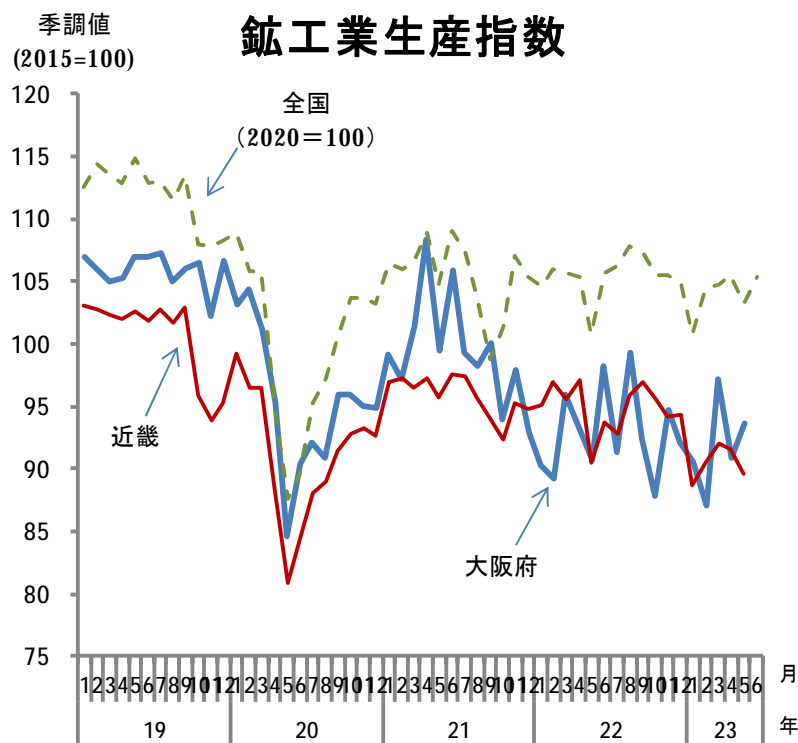
(出所)関西エアポート



(出所)観光庁

供給面の動き：生産(1)

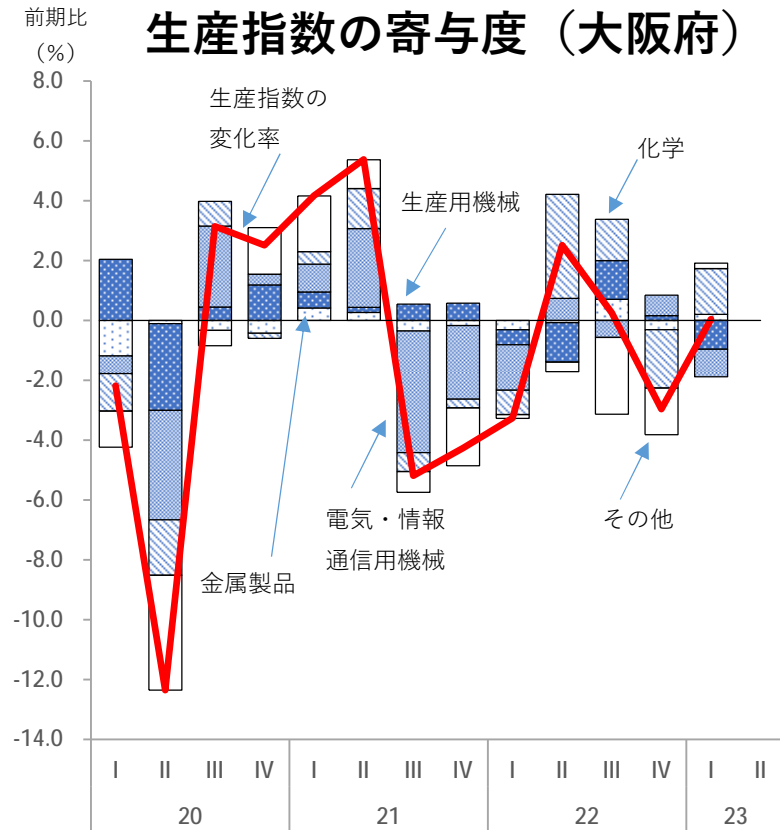
- ・生産指数では、
大阪府(5月)は2ヶ月ぶりの上昇、全国(6月)は2ヶ月ぶりの上昇。
- ・在庫指数では、
大阪府(5月)は5ヶ月ぶりの低下、全国(6月)は2ヶ月ぶりの低下。



(出所) 経済産業省、近畿経済産業局、大阪府統計課
 ※大阪府、近畿は2015年=100。全国は2020年=100。

供給面の動き：生産(2)

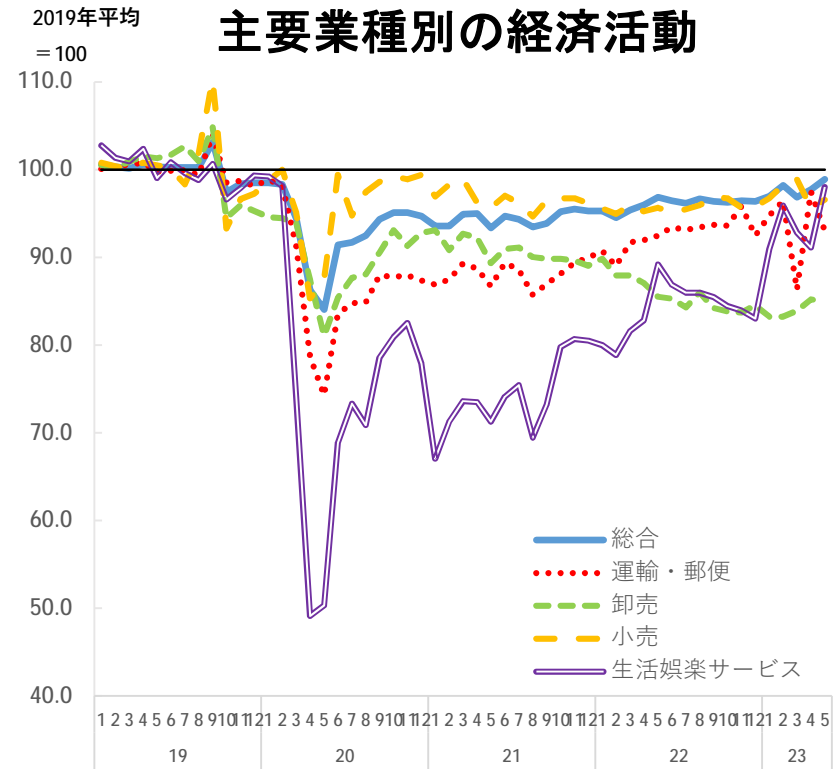
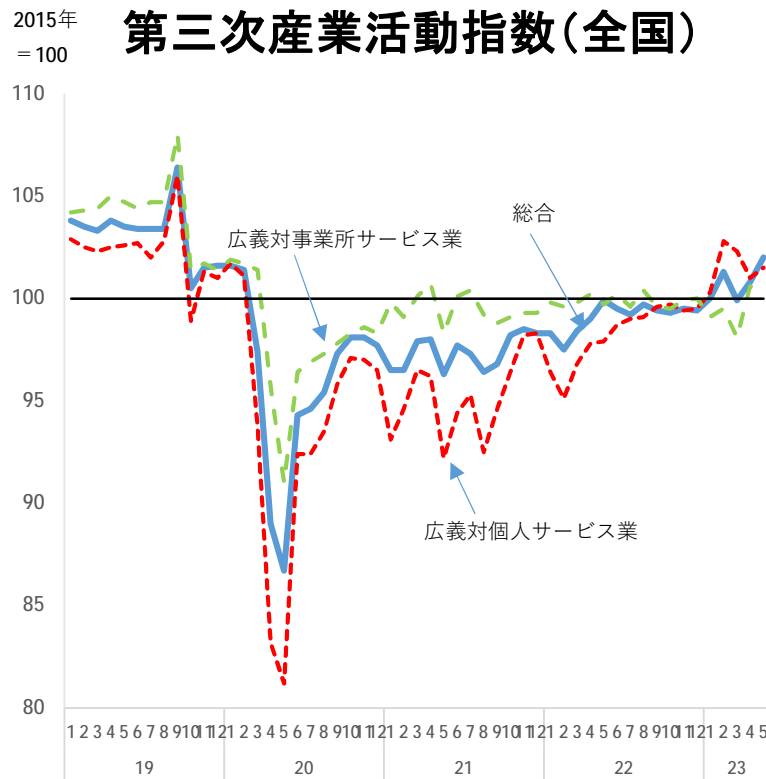
- 生産の足元の動きでは、
全国では、自動車の動向が生産全体を左右。
大阪府では、化学や電気・情報通信用機械、生産用機械などが変動。



(出所) 経済産業省、大阪府統計課

需要面の動き：生産(3)

- ・第三次産業の動き(全国)では、対個人サービスの上昇基調が続き、コロナ前まで回復しつつある。→ただし、業種別によって回復度合いに差異。

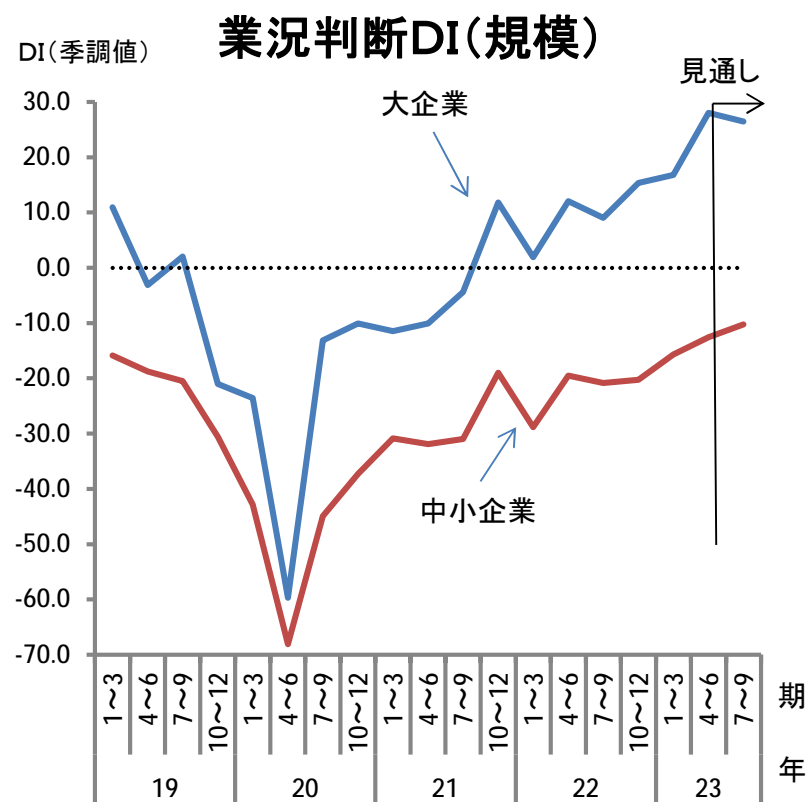
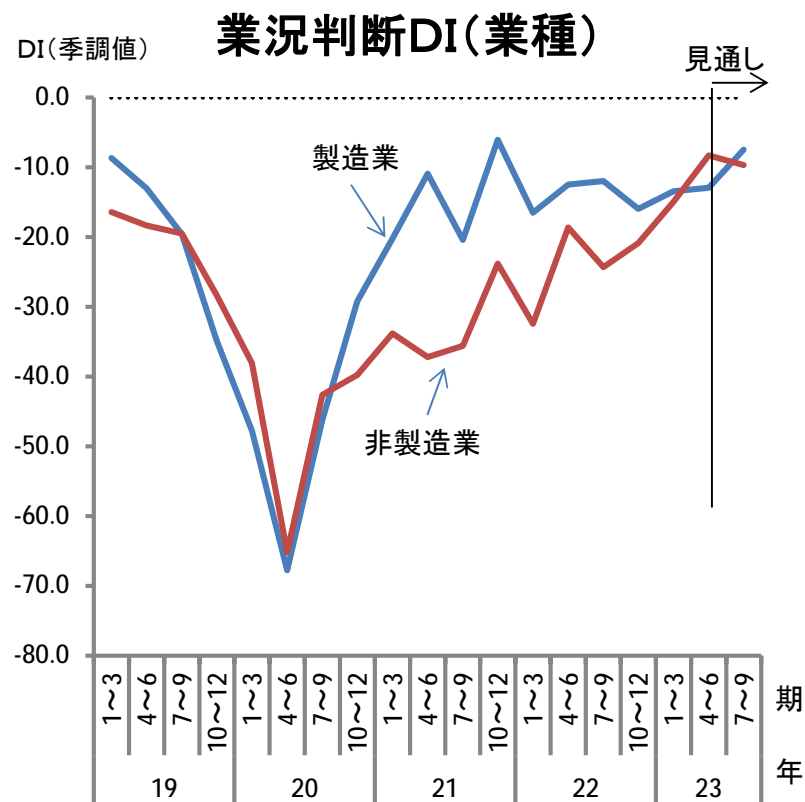


(出所)経済産業省

※季節調整値、右図は2019年平均=100として再加工

供給面の動き：大阪府景気観測調査(1)

- 業況判断DIでは、23年4～6月期は、
製造業は3期連続の改善、非製造業は4期連続の改善。
見通しでは、製造業は上昇、非製造業は低下。



(出所)大阪産業経済リサーチセンター ※季節調整値

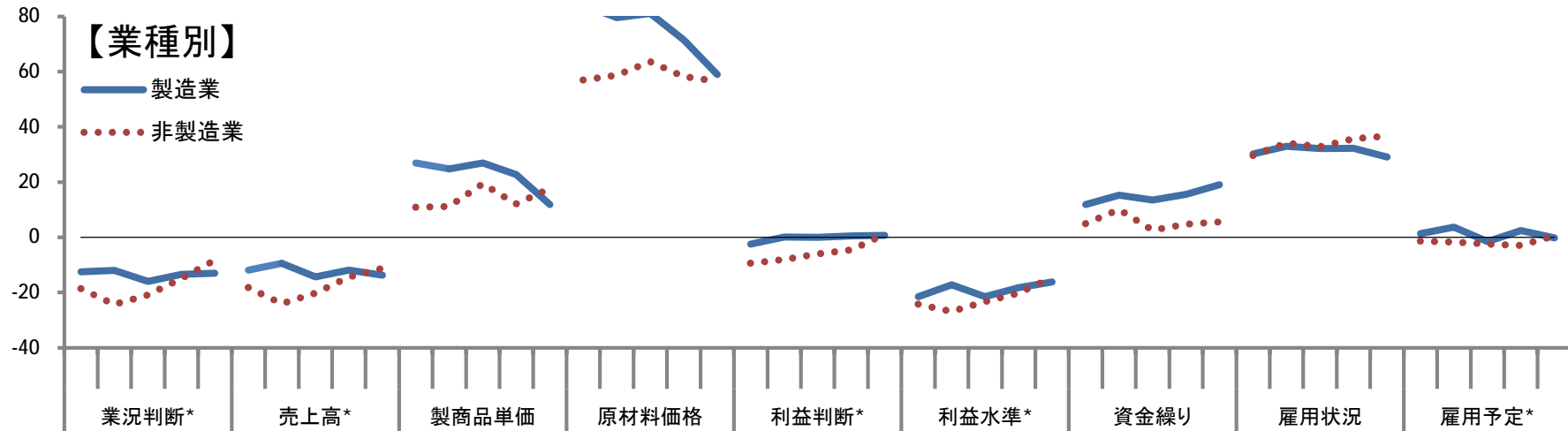
※ DI(Diffusion Index)とは、
「上昇または増加等と回答した企業割合(%)」から「低下または減少等と回答した企業割合(%)」を差し引いたもの。
DIが上昇することは、「上昇または増加等と回答した企業割合が増えた」ことを意味する。

※ 【調査方法: 23年4～6月期】大阪府内の民営事業所を対象に23年5月下旬～6月中旬に実施。回答企業数1,836社。

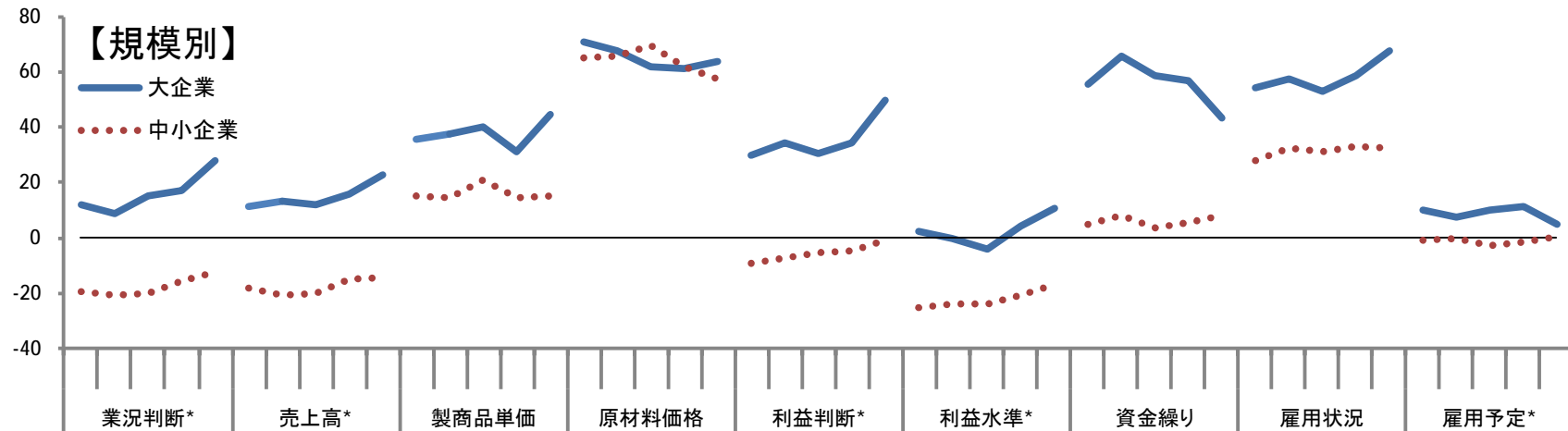
供給面の動き：大阪府景気観測調査(2)

各DIの推移(2022年4～6月期－2023年4～6月期)

DI(季調値)



DI(季調値)

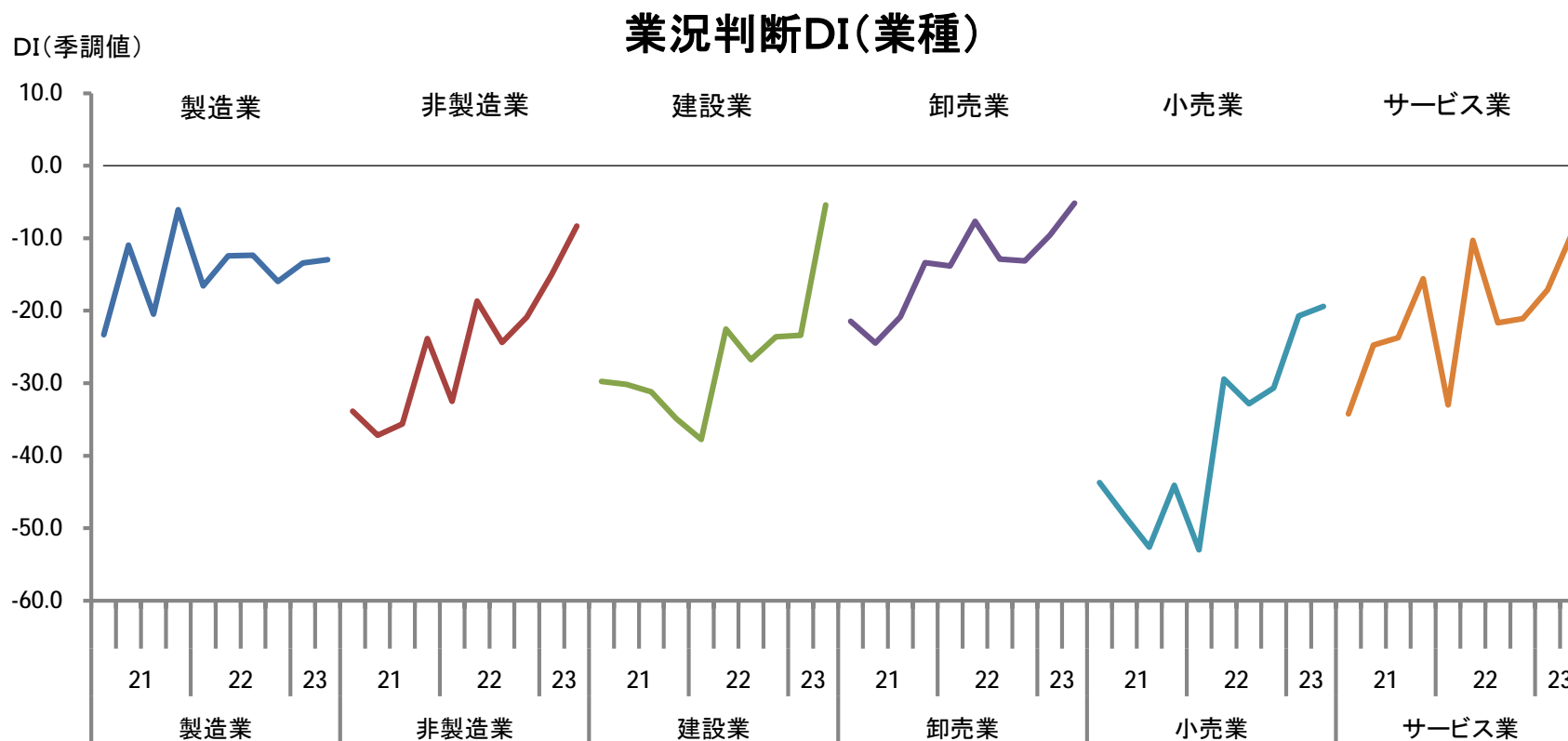


※ 「利益判断」=(黒字)-(赤字)、「利益水準」=(利益増加)-(利益減少)、「雇用状況」=「雇用不足」-「雇用過剰」

(出所)大阪産業経済リサーチセンター ※*は季節調整値、残りは原数値

供給面の動き：大阪府景気観測調査（3）

- 業種別の業況判断DIでは、
製造業は一進一退、非製造業は上昇基調。
ただし、非製造業でも業種によって回復度合いに差異。

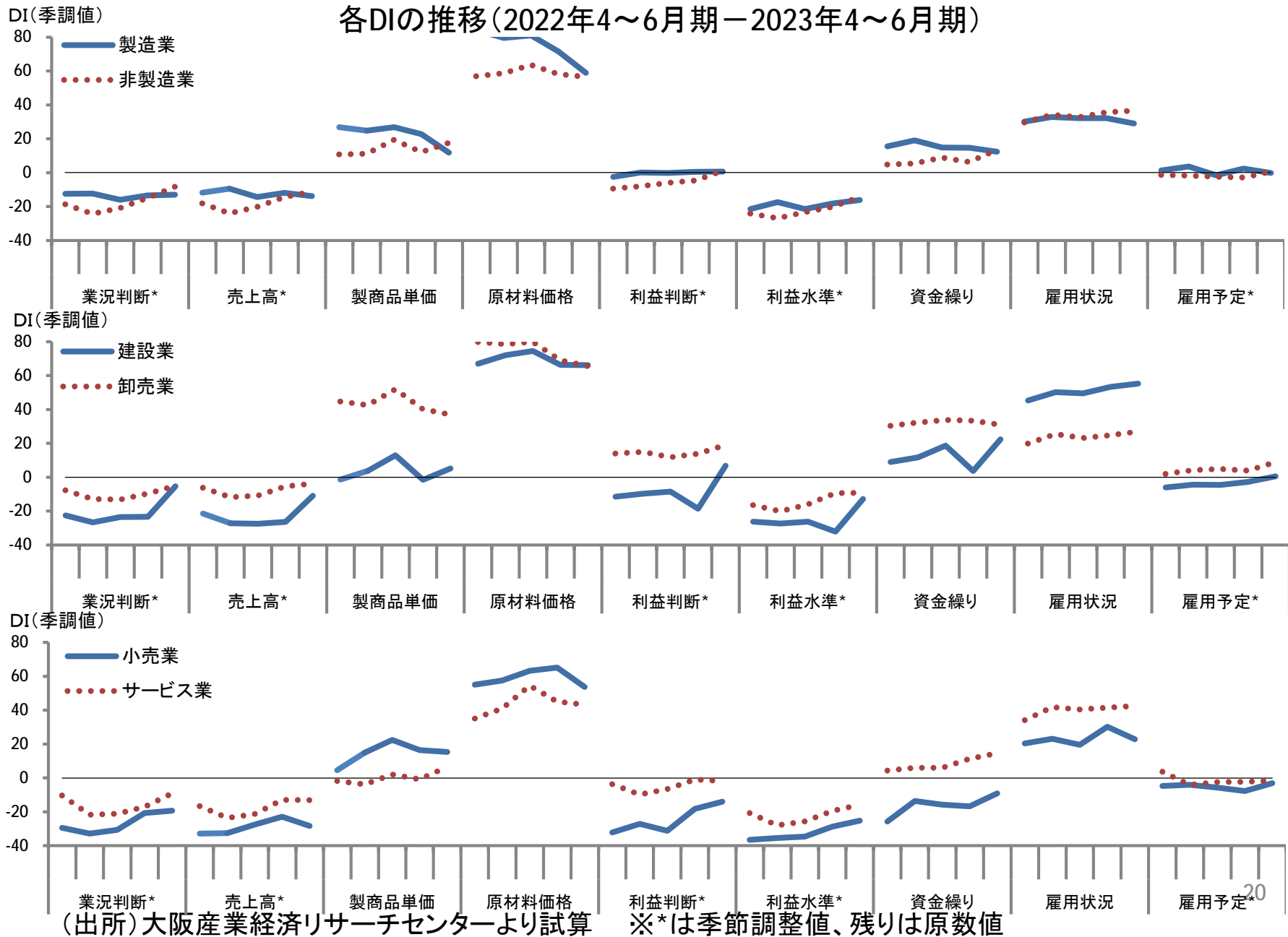


(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算 ※季節調整値

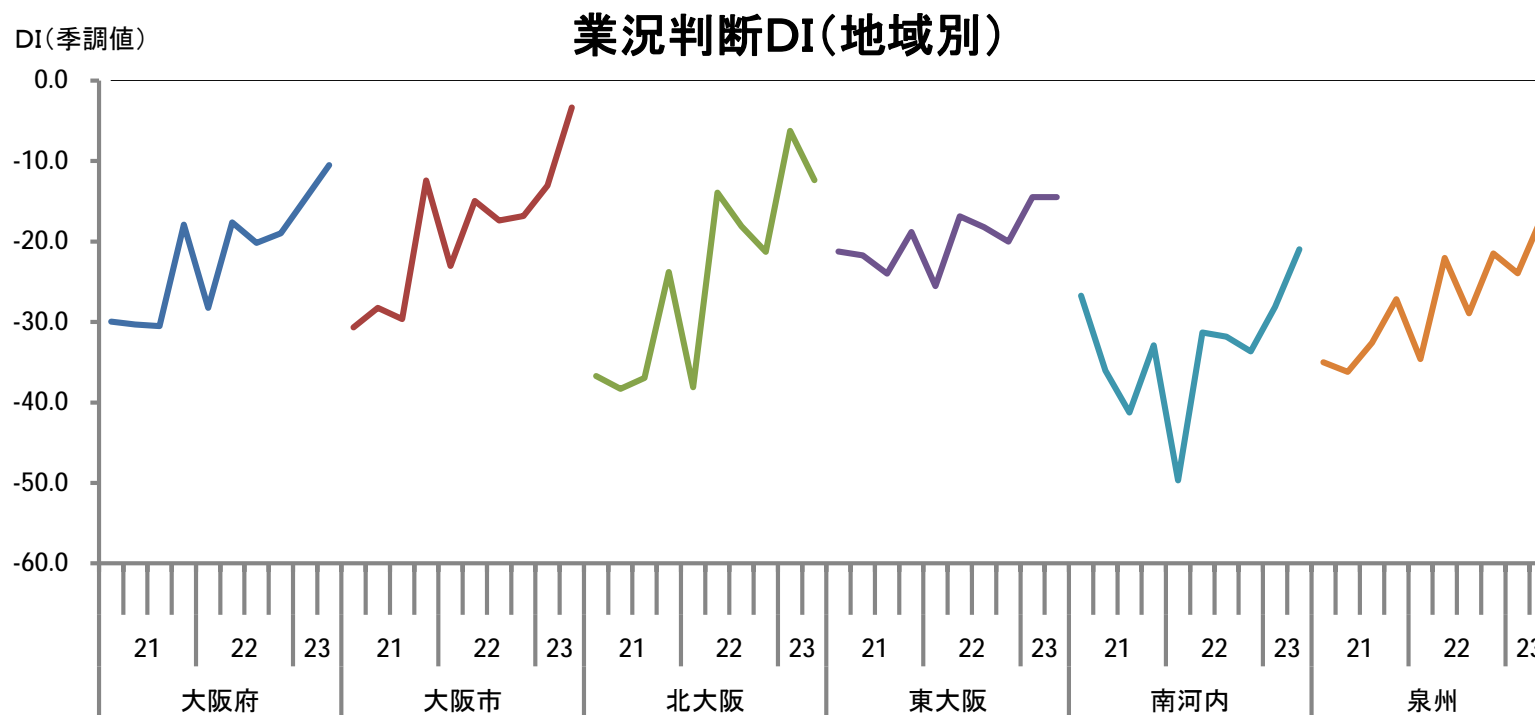
<アンケート回答企業における業種特性>

建設業： 小規模性が強い	小売業： 半分以上が4人以下と零細性が強い
卸売業： 比較的中堅企業が多く存在	サービス業： 小規模性は強いものの、中堅企業も存在

供給面の動き：大阪府景気観測調査(4)



【参考】府内地域別の景気動向(1)



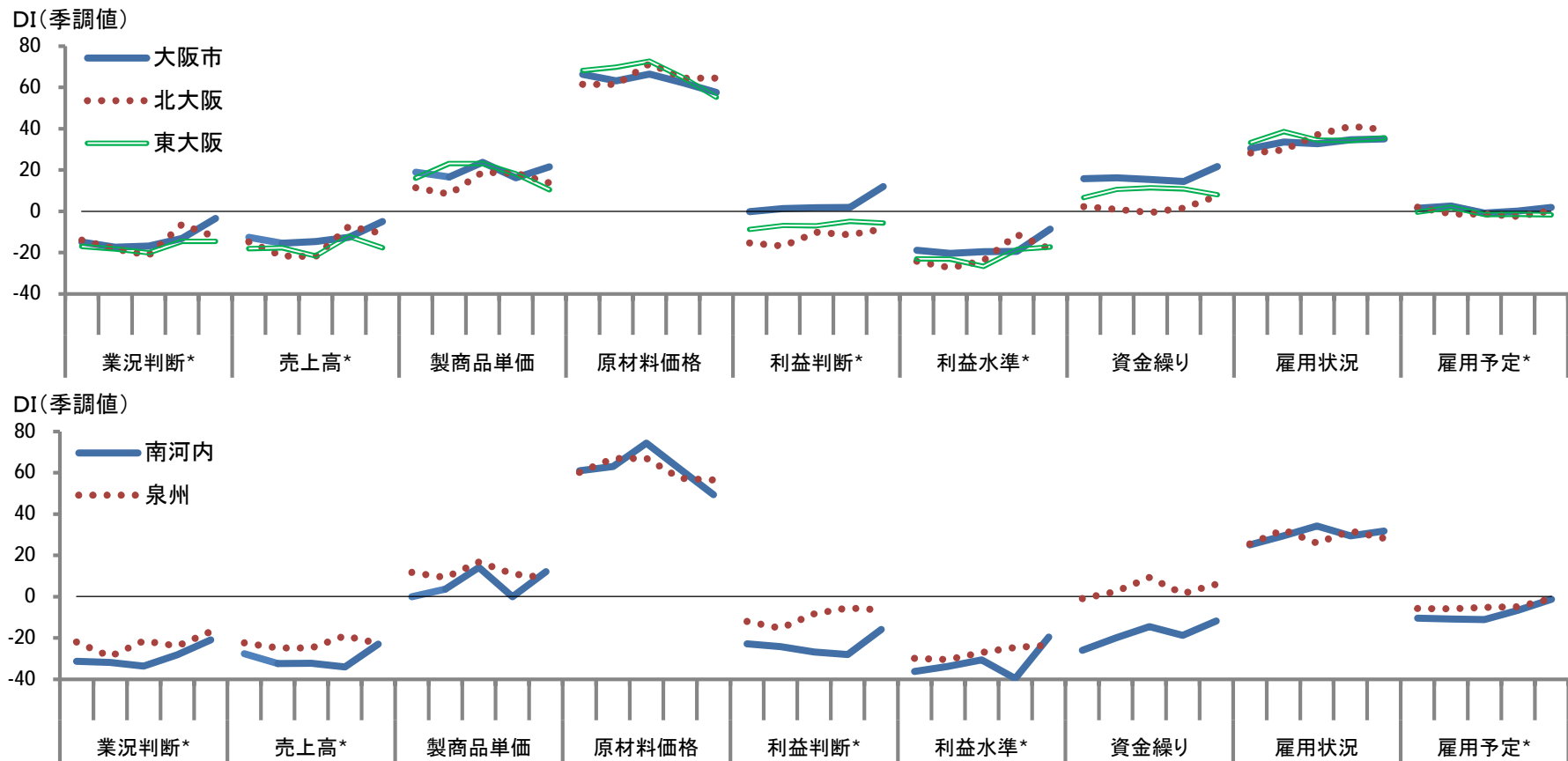
(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算

<アンケート回答企業における地域特性>

大阪市	非製造業比率、大企業比率が高い。
北大阪	非製造業比率が比較的高い。
東大阪	製造業比率が高い。
南河内	サンプル数が少ないため、大きく変動することがある。
泉州	若干製造業比率が高いものの、産業の偏りは少ない。

【参考】府内地域別の景気動向(2)

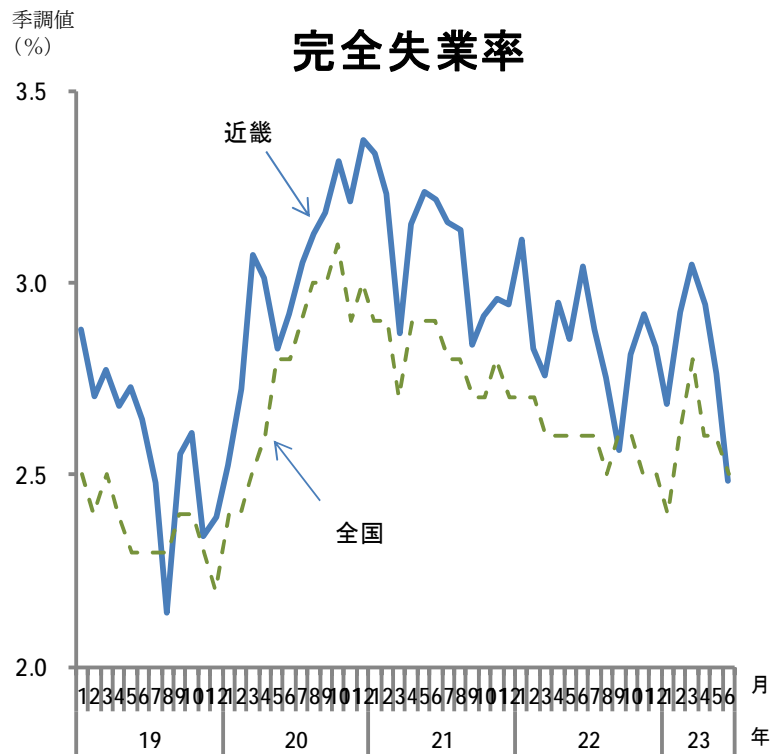
各DIの推移(2022年4~6月期—2023年4~6月期)



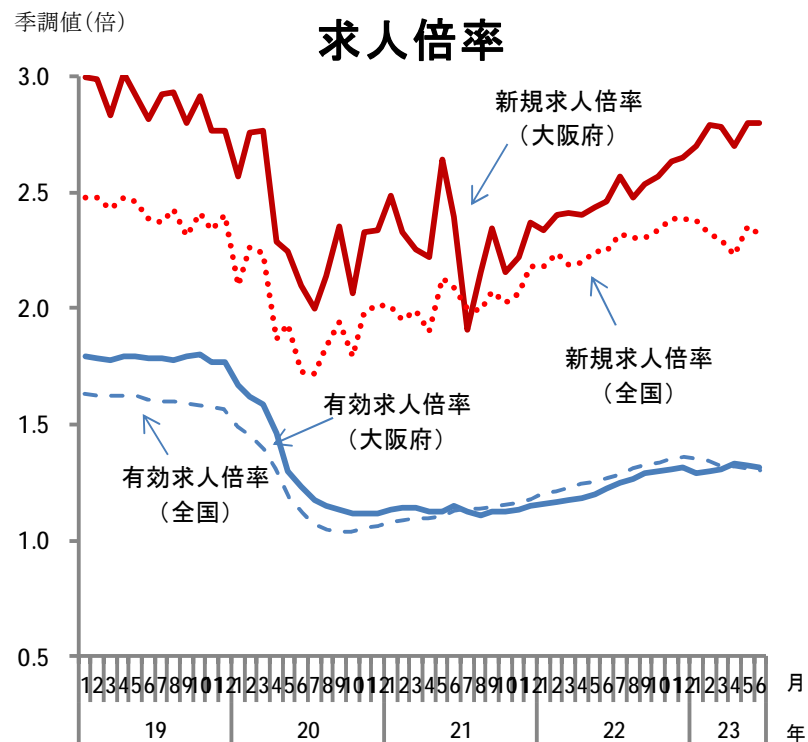
(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算 ※*は季節調整値、残りは原数値

供給面の動き：雇用(1)

- ・完全失業率は、全国・近畿ともに低下(改善)傾向が続く。
- ・求人倍率は、全国・大阪府ともに足元では上昇基調に一服感。



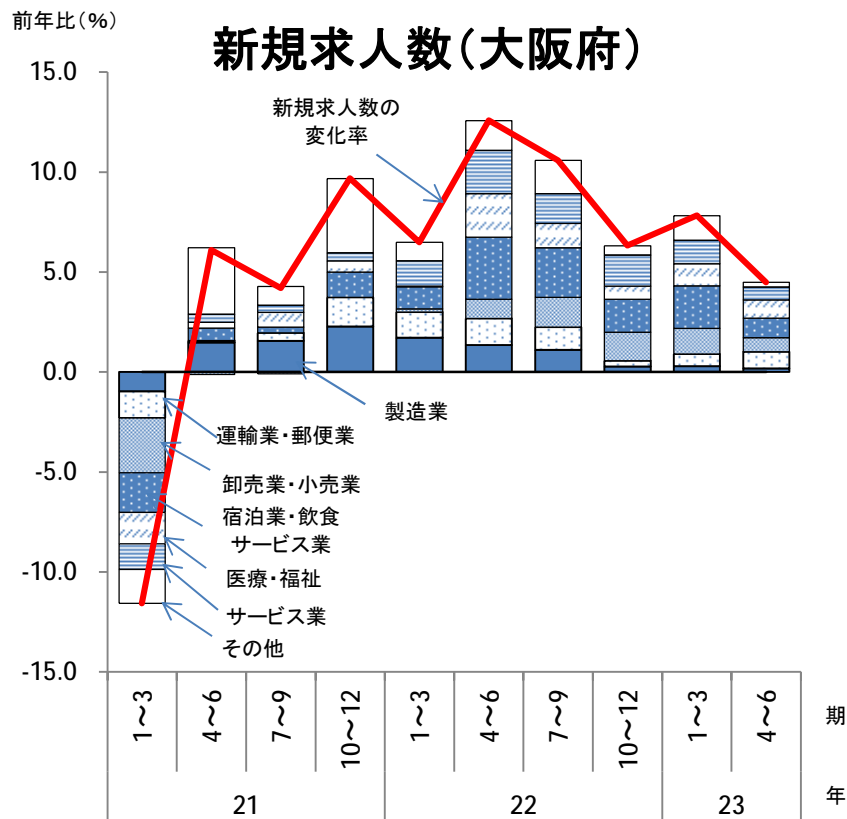
(出所)総務省統計局、季節調整値
 ※近畿の季節調整値は試算値



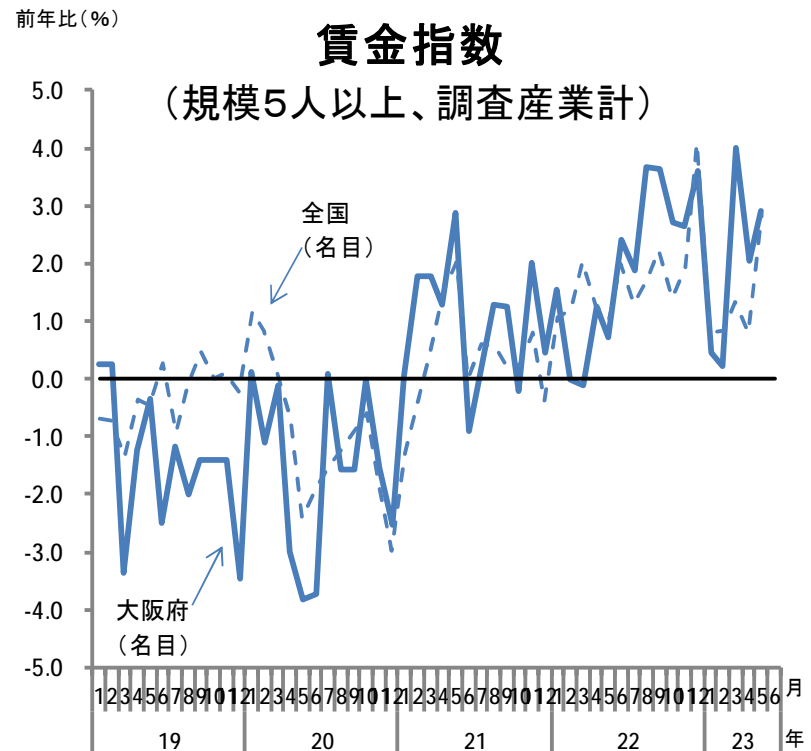
(出所)厚生労働省

供給面の動き: 雇用(2)

- ・新規求人数の動向では、足元では「宿泊業・飲食サービス業」を中心に増加。
- ・賃金動向では、上昇傾向が続くとともに、足元では上昇幅は拡大。



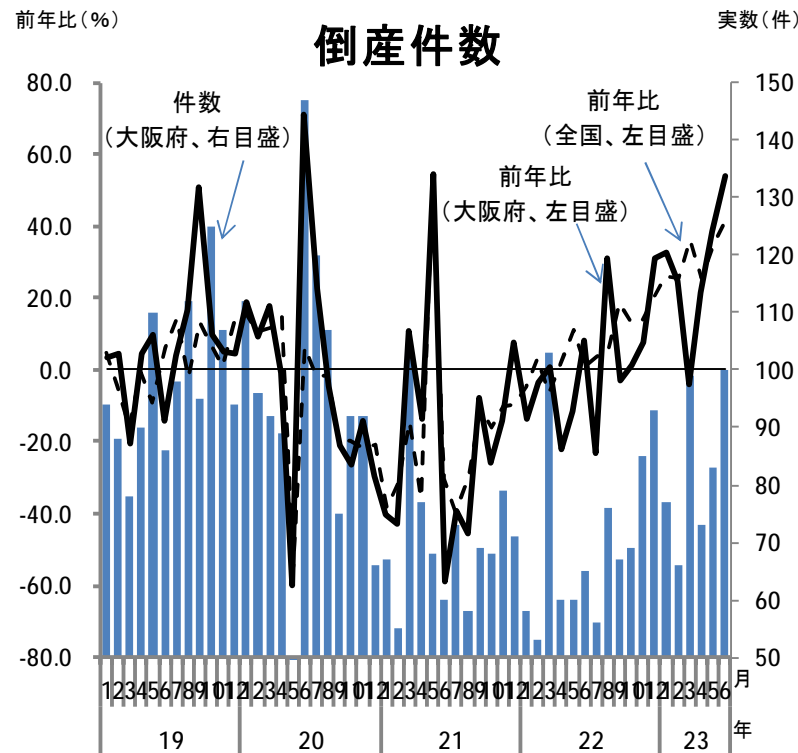
(出所)大阪労働局



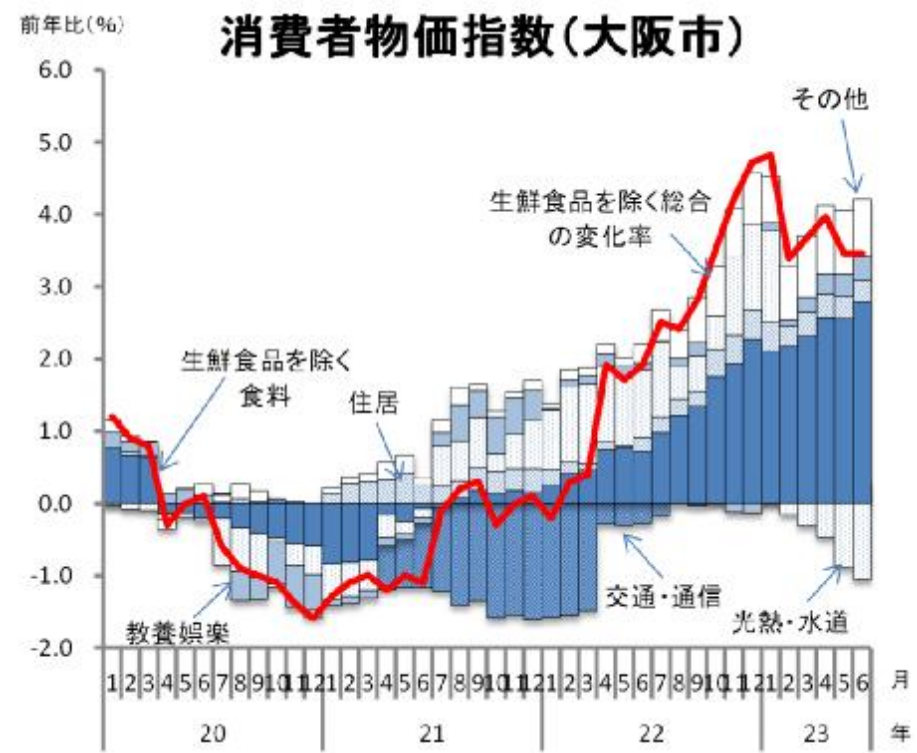
(出所)厚生労働省、大阪府統計課

供給面の動き：倒産・物価

- ・倒産件数は、足元では、増加(悪化)基調が続く。
- ・物価では、上昇基調が続くものの、政策効果もあり足元では鈍化
→今後どうなるか。



(出所)東京商工リサーチ



(出所)大阪府統計課

今後の見通し

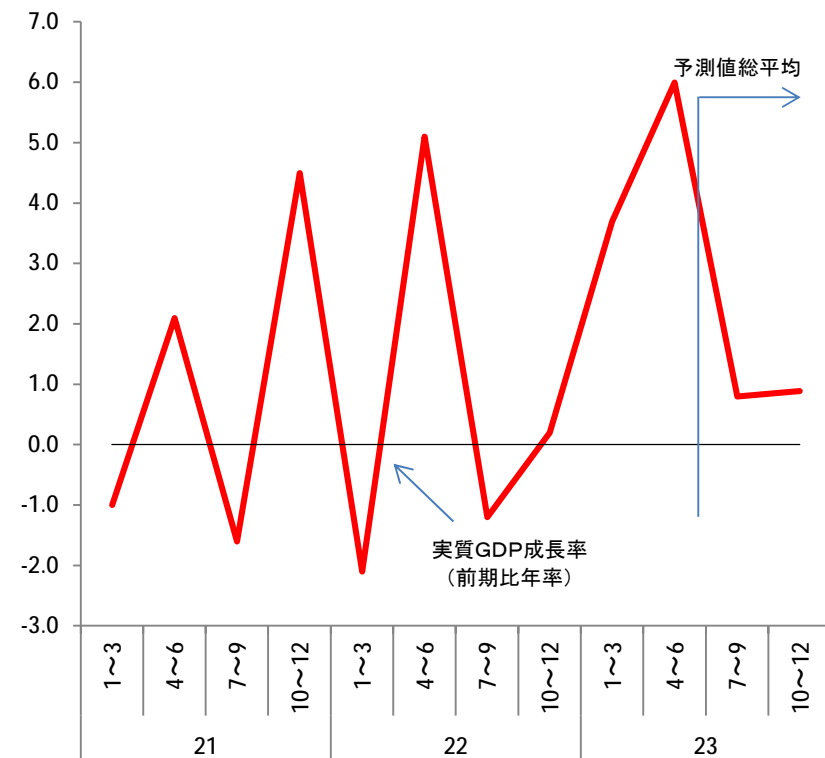
- ・世界経済の見通しでは、23年はわずかに上方修正されたものの、23年・24年ともに景気後退が懸念される状況。
- ・日本の見通しでは、緩やかなプラス成長が続く見込み。

世界経済の見通し(単位:%)

	22年	23年	24年
世界全体	3.5	3.0(+0.2)	3.0(0.0)
先進国	2.7	1.5(+0.2)	1.4(0.0)
アメリカ	2.1	1.8(+0.2)	1.0(-0.1)
ユーロ圏	3.5	0.9(+0.1)	1.5(+0.1)
日本	1.0	1.4(+0.1)	1.0(0.0)
新興・途上国	4.0	4.0(+0.1)	4.1(-0.1)
中国	3.0	5.2(0.0)	4.5(-0.1)
インド	7.2	6.1(0.0)	6.3(0.0)

(出所)IMF, 2023年7月時点
()内は前回時点(2023年4月)からの改訂幅

前期比年率(%) 実質GDP成長率予測



(出所)内閣府、日本経済研究センター

まとめ

- 新型コロナウイルス感染症による行動制限がなくなってから、経済は急速に回復するも、足元ではその動きに一服感も。
- 経済の急速な回復は、外出機運やインバウンドなどが中心の「対面型サービス業」が中心。
一方、製造業など他の産業は、回復に力強さを欠く。
- 先行きでは、
 - ・世界経済の減速懸念により、生産・輸出などがどの程度影響を受けるか。
 - ・賃金上昇により、経済の好循環が実現されるか(下図)。→消費はそれまで持ちこたえられるのか。

